



## 「すみだミライ白書制作プログラム」第2回を開催しました。

去る9月7日に行われた第二回目のプログラムでは、第一回で作られた「ありえない問い」（例：2035年、墨田区民全員がIQ180以上になりました。）がすでに目の前に起きている“事実”だと想像して、一体どうしたらそれが実現したのかを、対話を通したグループワークで考えていきました。過去からの延長ではなく、ミライから逆算する

“0ベース”で考えを進めることは非常に難しくアタマを使うものでしたが、それでも対話のなかで刺激し合うことで様々な「答え」を作ることができました。

次回第3回では、「答え」をまとめて体系化し、ジブンゴトとして捉える作業を行います。



### フィールドワークを行いました。

第2回が開催された後、三度に渡って墨田区内のフィールドワークを行いました。9月27日は八広地域プラザ運営協議会様、28日は区内保育園様、そして9月30日には立川児童館を運営するワーカーズコープ様にご協力頂きました。プログラム第2回同様、「問い」に対する「答え」を皆さんに考えて頂きました。答えの内容はもちろんですが、「学童の子供たちとやってみよう！」という意見を頂くなど、新たな手応えを感じました。



### 出てきた「答え」※一例

「事業計画のかけ  
る町工場」がふえ  
たから

研究者専用の  
シェアハウスが  
あるから

Q 2035年、  
墨田区が日本のシリコンバレー  
として世界中の学生と研究者が  
来たいマチになりました。  
なぜでしょう？

大学生ベンチャー  
を住み込みさせて  
あげる町工場が増  
えたから

大企業の研究施設  
と町工場の技術力  
の連携がすすんだ  
から

### 参加者の声

- 考え方が新鮮で活かせそうでした。
- 実現できたら面白いなと思った。
- 多世代は難しい。課題は近い場合が多い。

### 編集後記

実に様々な答えが出たことに驚きました。まったく考えもしなかった観点であったり、今は無くなったものを復活させることでミライの問いへの答えになったりと、多世代ゆえに色々学びがありました。（スタッフ竹内）